

平成 27 年（2015 年）1 月 28 日

## 全国的な先進事例 図書無人貸出サービス実証実験開始

～神奈川県秦野市が ICT を活用した「スマートライブラリー」実証実験を開始～

株式会社図書館流通センター（本社：東京都文京区、代表取締役：渡辺太郎）は、神奈川県秦野市と共同して、平成 27 年 2 月 1 日（日）より秦野市本町公民館図書室の無人貸出サービスについて実証実験を開始します。夜間のみ無人図書館は国内で数例ありますが、図書室を無人とし、利用者自身が図書の貸出・返却・図書の持ち出しを行う試みは全国的にも新しい事例となります。

### 1. 実証実験について

図書館総合支援企業・図書館流通センターは、常に新しい図書館サービスの提案を行っています。この度神奈川県秦野市と協定を締結し、図書無人貸出サービスの実証実験を開始します。

### 2. 実証実験の仕組みと概要

利用者カードで入室管理を行います。図書室内に職員を配置せず、図書の貸出・返却は利用者自身が自動貸出機、自動返却機で行います。図書室内では出入口前にドアと連動した IC ゲートを設け、貸出未処理の図書を持ったまま通り抜けようとする IC ゲートが反応し、ドアが開かないセキュリティドアにより、図書の無断持ち出しを防ぎます。

出入口と館内の状況監視に監視カメラを 4 台設置するとともに、利用者が利用に困った際は、公民館事務室と直結した内線電話で相談できます。

<今後の運用予定>

平成 27 年（2015 年）2 月 1 日～平成 29 年（2017 年）3 月末日（予定）

### 3. 実証実験の事業予算

事業予算の総額は約 2,500 万円。うち 1,000 万円は公益財団法人図書館振興財団の「平成 26 年度振興助成事業」助成金を活用し、残額を TRC が負担して実証実験を行います。

### 4. 実証実験で検証する内容

利用者自身で貸出・返却・図書持ち出しを行う図書室の利用について、財政縮減効果を検証します。利用者の利用傾向を探るとともに、技術的課題を検証します。

### 5. 実証実験を試みる背景と今後の展開

全国に 3,274 ある図書館のうち、分館は 1,371 館あります。また全国の公民館のうち、約 37%にあたる 5,455 館に図書室が設置されています。（平成 23 年度文科省社会教育調査）

業務の効率化、司書配置の適正化を行うことにより、図書館本来の機能であるレファレンス業務などを充実させ、より高度な利用者のニーズに応えられるようになります。

今回の実証実験で課題と効果を評価・検証し、成果を明らかにするとともに、全国の図書館分館や公民館図書室への提案についても、順次展開していく予定です。